

2006年度 日本文化人類学会 第6回理事会 議事録

日時：2007年2月14日（水）14:00～17:30

会場：東京外国語大学本郷サテライト

出席者：須藤、上杉、大塚、小田、窪田、栗本、棚橋、富沢、松岡、山本、吉岡

委任状提出：赤堀、春日、瀬川、スチュアート、関、田中、永淵、松田、三尾、森山、和崎

[承認事項]

1. 前回（2006年度第5回）理事会議事録

[報告事項]

1. 庶務理事報告

- ・新入会員（7名）につき、総務会で入会を承認したことを報告。
- ・資料に基づき学会賞受賞候補者の推薦に関する持ち回り評議員会を招集したことを報告。評議員会の内容は以下の通り。

①投票結果の報告：投票数は19通（うち消印が適切を過ぎているもの2通、消印不明1通）。評議員数47名（過半数24名）により、今回の投票数が、「評議員の過半数の投票」という「日本文化人類学会学会賞選考規則」（以下、「規則」と略記）の規定を満たさなかった。

②投票結果を受けた総務会提案：以上の投票結果、ならびに、それと「規則」の規定との整合性を勘案し、評議員会による学会賞受賞候補者の推薦に関しては、「学会賞受賞候補者として推薦する該当者なし」とし、この決議を評議員会から学会賞選考委員会に対して提出することを総務会より提案。

③提案に関する審議方法：上記の提案に関する承認・不承認を、1月31日までにメールで学会事務局宛に連絡。回答数が評議員の過半数に達することをもって評議員会の成立とみなす。評議員会が成立した場合、回答の過半数の意見をもって上記提案の承認・不承認を決する。

評議員会の審議の結果、回答数32のうち「承認する」が30、「承認しない」が2、よって総務会改定案が承認されたことを報告。今回の経緯及び結果を踏まえ、第41回研究大会前後を目途に学会賞の選考方法等について「日本文化人類学会学会賞選考規則」の改正を含め抜本的な見直しを検討していくこととした。

2. 広報理事報告

- ・国立情報学研究所（NII）へJRCAの無料公開化について正式に連絡したことを報告。

3. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：71巻4号が印刷段階にあることを報告。
- ・JRCA編集委員会：Vol.7掲載予定原稿の編集進捗状況を報告。
- ・国際連携委員会：2006年12月3日～7日に南アフリカのケープタウン大学で開催されたIUAESインターコンGRESSについて報告。特に、IUAESが抱える問題と、2008年に中国の昆明で開催予定のコンGRESSの情報について報告された。今後本学会から3名の代表（Delegates）を出さなくてはならないことなどについても情報交換が行われ、IUAESと本学会の関係は情報を集めつつ検討を行っていくこととした。

また、現在WCAAの代表幹事（Facilitator）である国際連携委員の小泉潤二氏の再任が決定したことを報告。

- ・広報・情報化委員会：2007年9月開催予定のシンポジウムの会場費（東京）を予備費から支出したことを報告。
- ・地区研究懇談会担当委員：関東地区、中四国地区、北海道地区研究懇談会の予定について担当理事より報告。
- ・『文化人類学中事典』編集委員会：棚橋理事より、本日理事会前に編集委員会を開催し、中項目の調整を行ったことを報告。
- ・第41回研究大会報告：欠席の和崎理事に代わり小田理事より、現在の発表申込状況等を報告。

[審議事項]

1. 『文化人類学』寄稿規定・執筆細目の改正

- ・ 吉岡理事より、『文化人類学』寄稿規定について改正提案があり承認された。主な変更点は「新刊紹介」を廃止することと、項目3「投稿区分」の追加、それに伴う項目番号の変更等で、改正案は以下の通り。

○『文化人類学』寄稿規定改正部分：

- ・ 3 投稿区分（項目追加）

本誌には、「論文」「研究ノート」「資料と通信」「書評」という投稿区分があります。「研究ノート」は、荒削りだが斬新な発想に満ちたもの、更なる実証が必要だがとりあえず提起できそうな議論、また、新たに発見された各種のデータとその解題などを対象としています。「資料と通信」は、学会・シンポジウムなどの報告や、議論のやりとりのための通信を対象としています。また「書評」は、注目すべき新刊書の内容についての簡潔な紹介・コメントから、オリジナルな評価や見解を含むものまでを対象とします。

- ・ 4 枚数

(改正前) 枚数 (400字1枚計算) には原則として下記の制限を設けます。…

(改正後) 枚数 (400字詰原稿用紙1枚計算) には原則として下記の制限を設けます。…

- ・ 項目4以降の項目番号の変更と「新刊紹介」の表記の削除。

○『文化人類学』執筆細則改正部分：

- ・ 2 構成

文中より「新刊紹介」の項目削除。

- ・ 5 英文タイトル

(改正前) 論文、研究ノート、資料と通信、訃報には英文タイトルを付けてください。

(改正後) 論文、研究ノート、資料と通信には英文タイトルを付けてください。

2. JRCAの研究ノート掲載にともなう執筆細則の改正について

- ・ 窪田理事より、JRCA執筆細則 (Instructions to Contributors) について改正提案があり承認された。改正案は以下の通り。

- ・ 2) (改正前) Articles should not exceed 10,000 words in length.

(改正後) Submitted articles should be categorized into *Articles* or *Research Notes*.

- ・ 3) (項目追加)

Articles should not exceed 10,000 words in length. Research notes should not exceed 5,000 words in length.

- ・ 項目3) 以降の項目番号の変更。

- ・ また、Vol. 7に改正済み執筆細則を掲載すること、Vol. 7の目次では論文と研究ノートの区別をせず、論文タイトルの上に研究ノートと明記の上「reviewerの意見をうけてリサーチノートとした」ことを記載することが承認された。

3. 倫理規定案について

- ・ 松岡理事より、資料に基づき「日本文化人類学会倫理(綱領、ガイドライン、規定、規程)」策定のための素案の説明があった。意見交換の上、素案に付け加えるべき項目・意見があれば松岡理事へEメールで送信することとし、その意見等を踏まえ次回理事会で再提案を行うこととした。今後のスケジュールについては、2007年度総会以降に全文を提案し12月頃までに検討、2007年度内の策定を目指すことを確認した。

4. 応用・実践人類学に関する検討作業グループの次年度「実践人類学連携事業案」について

- ・ 栗本理事より、応用・実践人類学に関する検討作業グループによる次年度「実践人類学連携事業案」について説明があった。その上で、①国立民族学博物館と学会の連携のあり方そのものについて、②学会として「応用・実践人類学」をどう考えているのか、の2つについて議論が必要との意見が述べられた。議案書・事業計画について意見交換の結果、作業グループの1年間の活動報告書の提出について栗本理事より作業グループに伝えることとした。また、次年度の対応については会長と栗本理事とで検討の上、次回理事会で提案することとした。

5. 2006年度事業報告・2007年度事業計画について

- ・ 各理事が担当している委員会活動や事業等について、今年度の報告と来年度の計画案、及び来年度の委員会活動や事業等に関する予算要求を3月24日までに小田理事に提出することとした。
- ・ 地区研究懇談会の決算報告は4月6日までに事務局へ提出し、補助金の余剰は返金することとした。
- ・ 2006年度中に支出が必要なものがある場合は3月10日までに事務局へ連絡することとした。

以上